

2022年6月7日掲載 物流ニッポン

トナミ運輸&第一貨物

静岡・駿河で協業開始

生産性向上&運営費減

トナミ運輸(綿貫勝介社長、富山高岡市)と第一貨物(米田総一郎社長、山形市)は1日、静岡市駿河区の拠点で、13日から初となる持ち株会社、トナミホールディングスとデイリー・

ティー・ホールディングス(DTHD 武藤幸規社長、山形市)が2021年2月に合意した資本・業務提携の一環。双方の資産を有効活用することで、生産性の向上、運営コストの低減につなげる。

今回の取り組みは、第一貨物の静岡支店(静岡市駿河区)で展開。同支店の特別積合せ施設にトナミ運輸が入居し、ターミナルなどを共用する。本業スペースを区分けし、業務内容に関しては厳格な情報隔離措置を施す。

第一貨物では施設の稼働率アップに結び付くのがメリット。トナミ運輸は近くにある同社静岡支店(同)の老朽化、狭あい化が進んでいるため、それら課題の解消が図られる。両社は共同配送エリアで、効率的な運用を追求。幹線輸送に関しても相互補充を視野に、運行計画を組む方針だ。

今後はESG(環境・社会・企業統治)やSDGs(持続可能な開発目標)といった流れも踏まえながら、シナジーを検証。成長し続ける社会インフラとして、より品質の高い物流サービスを提供できるよう、将来の試みに生かす。

(河野元)